

若狭ネット

第133号 2011年 9月24日

発行：若狭連帯行動ネットワーク

代表連絡先●福井：〒915-0035 越前市

入谷町13-20 山崎方 TEL0778-27-8621 ●大阪：〒583-0007 藤井寺市林5-8-20-401

久保方 TEL072-939-5660

ホームページ <http://www4.ocn.ne.jp/~wakasant/>

E-mail : wakasa@gaea.ocn.ne.jp

原発のない社会を求めよう！

フクシマ事故から半年経過 秋の闘いに参加しました

9月10日は、佐藤龍彦さん（双葉地方原発反対同盟）を招いて 現地福島と関西を結んで
フクシマ事故から脱原発への集会に、80名参加。

9月11日には 反戦・反核フェスティバル（長居公園）で「福島からのアピール」。

9月19日は東京明治公園のさようなら原発5万人集会に。（なんと6万人が集まる）

そして、翌日の9月20日に 対政府申し入れ行動をおこないました。

これは、「脱原発・エネルギー政策大転換を！ 京都議定書達成を！」署名運動の前段として、政府に対する申し
入れ行動で、次の3項目を要求しました。

- 1 すべての原発を停止し、原子力安全基準を抜本的に改定し、危険な原発は廃炉にしてください。
- 2 送配電部門を発電から分離し、国が責任を持って管理してください。
再生可能エネルギーを大幅に拡大してください。
- 3 食品安全委員会は生涯100mSvの被曝の容認を撤回し、
食品からの被曝を徹底的に減らす対策を行ってください。



9月19日のパレード参加

「脱原発」署名をさらに広げよう

脱原発・エネルギー政策大転換を！
京都議定書達成を！

反原子力デーの10月26日に

みんなで 関電へ申し入れをおこないましょう

脱原発、原発の再稼働は止めよ！ 原発に頼らない電力計画へ！と、

10月26日(水)午後3時から 関西電力本社（地下鉄「肥後橋」駅下車、歩5分）

★★★★★★★★★★★★★★★★

- ・ 8月25日に 20名の仲間と共に 関電交渉をおこないました。

「7月1日からの15%程度の節電要請」は、やはり関電の原発存続のための要請でした。

関電は、あくまで原発ありきの電力需給計画、11基の原発をなんとしても動かし続けるとしています。

野田政権は、「徹底した原発の安全を目指す」と、原発の再稼働へ！

原子力を推進してきた日本が、脱原発へと舵を取
るのかどうか、全世界から注目されています。

新たな野田政権が誕生しました。

彼は、「減原発」だと言われていますが、停止中
の原発は「徹底した安全確認できれば再稼働させる
方針」を示しています。長期的には「脱原発」の路線
を続けるかどうかは問われています。

日本原電敦賀原発3、4号炉（福井県）の増設
や、関西電力美浜原発の運転延長、リプレース（置
き換え）などに影響をもたらされることでしょう。



（9月19日、明治公園から デモ出発）

高浜町の野瀬豊町長が 高浜4基の廃炉、町財政へ与える影響を試算

9月8日 高浜町では、新しい原発にリプレース
（置き換え）されないまま4基とも廃炉になるとの想定
で、廃炉までの期間を40、45、50年の3ケースでシ
ミュレーションしました。廃炉まで40年では、現在の
町の新規事業はほとんどできなくなり経常経費も大
幅な削減になるとしました。同じく50年では、新規
事業はすすむが、行政サービスの削減もありえると
しました。いよいよ原発廃炉への道筋を想定すべき
だと考えざるを得ない時なのかもしれませんね。



しかし、河瀬
敦賀市長は、「原発は当面
必要、リプレ
ースして維持して
いく必要があ
る」とし、敦賀3、4号炉増設の計画継続を求めている

ます。

山口治太郎美浜町長も、「原発の再稼働とリプレ
ースを求めるのが町の方針です」と、表明していま
す。

福井県西川知事は、「しっかり方向性を出し、エ
ネルギー供給に支障のないようにしてほしい」と慎
重な対応をしています。

関西電力は、何が何でも原発の再稼働を目指
すと、再開のためのストレステスト（耐性評価）の作業
を進めています。国による評価結果の確認を経て、地
元にも説明して再稼働にこぎ着けたいと、強調し続
けています。

電気事業連合会の八木誠会長（関電社長）は野
田政権の発足に際し、「どのようなエネルギーを選
択していくのか、オープンな場で、長期的かつ複眼
的な視点をもって、国民的な議論を十分に積み重
ねていただきたい」とコメントし、原発推進策を維持
する発言を繰り返しています。

事故が未収束、東電は賠償の本払いに着手



東電は9月12
日、福島第1原発
事故の被災者に支
払った仮払金の累
計額が1190億円
に達したことを明
らかにしました。東
電は、被災者への
本払いの作業に
着手はじめ、約6
万世帯（約15万
人）に10月中の
支払い

開始を見込んでいます。

しかし、自主避難をした人たちには、未だに何ら
の補償もありません。自主的に避難をした福島県の
住民らと支援者が東電本店を訪れ、計約400世帯
に計約11億7千万円の損害賠償をしよう求める
申し入れ書を手渡しました。国の原子力損害賠償
紛争審査会の中間指針では、自主避難を賠償範囲
に含めていません。やはりきちんと損害賠償はおこ

なうべきです。

東電の原発事故に伴う損害賠償の目安をつくる政府の「原子力損害賠償紛争審査会」の一部委員学習院大の野村豊弘と早大教授の大塚直が、電力業界とつながりの深い研究機関から、毎月20万円ほどの報酬を得ていることが朝日新聞に報道されました。この審査会は、東電と被害者間の紛争を解決する役割を担っており、中立性を確保できるのかが大問題となっています。

なんと、なんと、なんと??

福島第1原発事故を起こした東電が、 過酷事故発生時の手順書も黒塗り

衆議院科学技術・イノベーション推進特別委員会(川内博史委員長)は、東電の福島第1原発の「事故時運転操作手順書」と、別の「シビアアクシデント(過酷事故)発生時の手順書」の大半がほとんどすべてを黒く塗りつぶして開示したことを明らかにしました。

シビアアクシデント手順書では、目次50行のうち「消火系」と「不活性ガス」と書かれた2行のみであったと言います。

そして、東電は、会議後に「核物質防護と知的財産上の問題」と説明し、資料を回収したというのです。

川内委員長は「これだけの事故を起こしておいてまったく資料開示に応じないのは遺憾。保安院も法的権限があるのを知りながら、これまで何もしていなかったということで理事からも怒りの声が上がった」と話しています。

事故を起こした張本人である東電は、「あくまで運転操作にかかわる手順書は社内文書。一般的に公開するものではない」と、表明しています。

福島県をはじめ、多くの人たちの財産を奪っている東電が、自らの手順書は、「知的財産だから公表しません」とは、怒りを乗り越えて、あきれかえるばかりです。

原発敷地内に中間貯蔵施設をという意見が浮上

未だに東京電力が起こしたフクシマ原発事故は、

冷却システムを回復できないままです。

M7の余震が起これば、原子炉の大破壊の危険性は去っていません。

フクシマ事故では、ヒロシマ原爆の約168発分にも相当する大量の放射能が放出され、大地を、海を、川を汚染しました。事故被災地では深刻な放射能汚染が続いています。

地域によってはチェルノブイリの高汚染地と同じレベルの汚染も生じ、福島県外でも汚染のホットスポットが発見されています。

放射能汚染を取り除く除染作業では、何年、何十年と除染を続けたいいけないのか、見通しすら立たず、汚染されたものを人目につかない場所に移動させる中間貯蔵施設を福島へという案が浮上してきています。破損した核燃料、溶融核燃料はもとより、がれきの山、高濃度汚染の汚泥など持って行き場がなく福島へ中間貯蔵として押しつけようとしています。

この問題について、私たちは、先ず、国がはっきりと脱原発を明確に決め、原発に頼らないエネルギー政策に転換すること。そして、東電は、原発大事故を起こした責任において、原発を止め、廃炉に進むことを明言してこそ、中間貯蔵施設の問題を国民的議論のテーブルにつかせることができるのではないかと、考えています。原発推進のまま中間貯蔵を認めると、これからも増え続ける廃棄物は、やがてどんどん集積できる場所として存在し、脱原発へと向かわない危険性があるのです。

双葉地方原発反対同盟と連帯した運動を

9月10日、大阪に招待した双葉地方原発反対同盟の佐藤さん。福島現地の人々の心からの叫びは、「故郷を返せ！美しい海、山、川を返せ！俺の人生を返せ！」ですと、力強く訴えられました。

佐藤さんたちは次の運動を展開しようとしています。

放射線量マップの作成と除染、瓦礫の処理問題、広がる放射能汚染の事実を知り認めることから、脱原発を基本とする「安心して暮らせる郷土づくり」、知識を深め広めるために学習会、自主的、自

発的に線量計を計る日常化、などです。

私たちが関電の原発を一日も早く止めるため、福島運動と連帯して、関電の闘いをがんばります。

まず、反原子力デーの10月26日に 皆さんと関電への申し入れ行動を準備したいと思います。グループ、個人の熱い思いを「申し入れ書」に込めて、対関電行動をおこないましょう。多くのおみなさんの参加を呼びかけます。

原発の再稼働をもくろむ関西電力

関西電力の森詳介会長は12日、今冬の電力需給について「原発の再稼働が実現しなければ夏以上に厳しくなると懸念され、生産調整まで踏み込んだ節電をお願いせざるを得なくなる」との見通しを示し、原発の再稼働をもくろんでいます。

関電では稼働中の原発4基のうち3基が年内に定期検査で止まるため、「夏と同じ節電で乗り切るのは難しく、今のレベルより踏み込まなければならぬ」と、私たちに脅しています。

今夏の最大電力需要となった8月9日は、2784万キロワット消費しました。この事実から電気は十分に足りていたことを証明したのです。



「対政府」署名を広めましょ

国は、ストレステストを行い、原発の再稼働への道筋をつけようとしています。しかし、このストレステストは、原発を合格判断するための安全基準づくりではありません。これは「原発にどれぐらい余裕があるか」を調べ、運転再開を内閣が判断するという儀式にしか過ぎないのです。

関電は、大飯3号炉を9月内にもストレステストの報告をし年内の再稼働を目指すとしています。定期検査を終えた高浜1号炉、美浜3号炉、大飯1号炉でも、10月にも報告をし、年度内の再稼働を目指すとしています。

本当に始めるべきことは、原発の設計用基準地震動や設計用津波高さを根本的に見直すことなのです。ストレステストではありません。ごまかしを許してはなりません。国の反動的な動きに注意をしなければなりません。

私たちは、原発を止めて、原発のないエネルギー政策へと転換させるため、署名活動をおこなっています。「脱原発を実現し、自然エネルギー中心を求める全国署名」1000万人を目指す運動と連帯して、並行して署名活動をしています。また、政府に対しても、今後も交渉を重ねていきます。

◆◆◆◆◆ 「編集後記」 ◆◆◆◆◆

- ◆ 私の故郷も台風12号のため、道路は切断、断水、電話回線不通などの災害に見舞われました。

3月11日の東北地方をおそった大地震、大津波、フクシマ原発事故(人災)により、被害が毎日マスコミ報道されている矢先、9月に、紀伊半島を台風12号が襲いました。大洪水のため、山が崩れ、家屋が倒壊し、多くの死者を出しました。私の田舎に住む隣人も、大雨の様子を見て来ると言っ、出かけましたが、川の氾濫に巻き込まれ、戻らない人となってしまいました。

日高川の河原にあったキャンプ場は跡形もなく、温泉への道路も寸断され通行止め、浄水施設が川に流され、断水が続く有様です。人類のおごり、高ぶりに対して、自然が警告を発しているかのように荒れ狂う自然。もう二度と大きな原発事故を起こさせないためにも、原発いらない社会へ早くシフトさせたいです。

- ◆ 9月18日の原発廃止に向けて！全国交流会に参加し、石巻市のKさん、仙台市のSさんの元気な姿と再会することができました。「1千万人署名」（現在100万人集約）の1000名分を原水禁の方に手渡しました。今後も取り組みを続けます。
- ◆ ドイツ誌シュピーゲルは9月18、ドイツの総合電機最大手「シーメンス」のレッシャー社長が原発事業から撤退する意向を表明したと報じました。日本の東芝、三菱、日立の企業は、・・・？ きよ子

◆◆◆◆◆